

相談援助演習Ⅱ

専門教育科目／4単位／TS授業

担当教員	福崎 千鶴（テキスト部分担当） ※スクーリング部分については、複数の教員により行う。
■使用テキスト	福祉臨床シリーズ編集委員会(編)『社会福祉士シリーズ 21 相談援助演習 第3版』弘文堂 2018
◆参考テキスト	<ul style="list-style-type: none">・社会福祉養成講座編集委員会(編)『新版第2版 社会福祉養成講座 ⑯ 社会福祉援助技術演習』中央法規出版 2005・川村隆彦(著)『事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク』中央法規出版 2003・山田容(著)『ワークブック社会福祉援助技術演習① 対人援助の基礎』ミネルヴァ書房 2003・山辺朗子(著)『ワークブック社会福祉援助技術演習② 個人とのソーシャルワーク』ミネルヴァ書房 2007・岩間伸之(著)『ワークブック社会福祉援助技術演習④ グループワーク』ミネルヴァ書房 2004・対人援助実践研究会 HEART (編) 『77のワークで学ぶ対人援助ワークブック』久美株式会社 2003・川村隆彦(著)『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 2002・社会福祉教育方法・教材開発研究会(編)『新社会福祉援助技術演習』中央法規 2001・久保紘章(著)『社会福祉援助技術演習(社会福祉士・介護福祉士養成講座)』相川書房 1996・米本秀仁(著)『社会福祉援助技術演習(社会福祉選書)』建帛社 2003・平野隆之・宮城孝・山口稔(編)『コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣 2005・白澤政和・福山和女・石川久展(編)『社会福祉士相談援助演習』中央法規 2009・社会福祉士養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規出版 2015・上野谷加代子監修 社団法人日本社会福祉士養成校協会(編)『災害ソーシャルワーク』中央法規 2013

講義概要・一般目標

社会福祉援助技術演習の目的は、相談援助などの理論と知識を具体的な援助場面で発揮されることです。本授業では、基本的な知識と技術について確認を行うとともに、社会福祉の様々な対象へのソーシャルワーク実践として、ロールプレイ、事例検討等を通して展開していきます。

テキスト課題では、スクーリング授業、社会福祉援助技術現場実習にスムーズに導入していくための知識や理論整理を行い、スクーリングにおいては、より実践に近い授業展開を実施します。

スクーリング授業出席に当たって、相談援助演習のテキストの通読や社会福祉六法等の通読も事前準備として実施しておいてください。

到達目標

- 1) ソーシャルワークの一連の流れを理解する。
- 2) ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークを理解する。
- 3) チームアプローチ、アウトリーチ、ネットワーキングによる生活支援を理解する。
- 4) 危機的状況への介入について理解する。
- 5) 利用者の状況に応じた生活支援を考え、総合的・包括的な支援を理解する。
- 6) ニーズに応じた社会資源の活用や資源開発を理解する。
- 7) 利用者の自己選択、自己決定をどのように支援していくか支援方法を理解する。

評価方法

T部分：科目単位認定試験（レポート）により評価。

S部分：出席状況（遅刻・欠席は不可）、受講態度、科目単位認定試験（スクーリング最終日に実施）。

学習指導

第3章 相談援助の方法

この章ポイント

人を援助していくうえで、ソーシャルワーク実践の展開過程の基本的な考え方を理解しておかなければなりません。クライアントとの面接で傾聴や共感、受容、問題の明確化などの援助技術技法を用いながらラポールを形成し、一連の過程を得て開始から終結に向けて進行します。

援助者は、対人援助などで用いられる専門用語の理解とともにそれぞれの手法を理解する必要があります。

プロセスを踏まえた援助視点を確認し、伝統的3法（ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク）から学び技法を修得してもらいます。ケアマネジメントを学び、チームアプローチ、アウトリーチ、ネットワーキングによる総合的な生活支援を理解してもらいます。解決を必要とする課題を認識し、利用者援助に役立つ調査が実践できるように手法を理解してもらいます。そして、利用者に役立つ社会資源を有効活用できるように理解を深めてもらいます。

第4章 総合的・包括的な相談援助

この章ポイント

専門的な援助者になるためには、備えておくべき能力やそれらを駆使できる自律性、また想像力と創造力が望まれます。これらは事例検討、グループディスカッションやロールプレイなどを体験することにより、自らの不足している点などを見出すことができます。

また、ソーシャルワーク実践の展開は、社会福祉援助場面の状況やソーシャルワーカーの所属機関・組織によって様々です。そのため、実際の実践現場では組織の機能や特性、援助場面等ソーシャルワーカーの役割や立場なども考慮しながら取り組む必要があります。

相談援助が時間の経過と空間の流れの中で展開されていることを把握し、総合的・包括的に理解してもらいます。そのために、社会的排除、虐待、低所得、ホームレス、外国人などの問題状況をつかみ、相談援助に必要な見立てが導き出せるように、生活問題の社会的背景も理解してもらいます。家族や世代間の交流、危機的な状況への対応の意味をつかみ、実践力を身につけられるようにします。利用者の自己選択・自己決定をいかに支援していけるかを、苦情解決、日常生活自立支援、成年後見、リスクマネジメントの視点から相談援助できるようにこれらについて理解を深めてもらいます。